

ISOM Japan NEWS Letter

続・第19回 ICOM (台湾) 感想記

— 第19回国際東洋医学学術大会印象記 —

秋田大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学講座 なかえ はじめ 中永 士師明

第19回国際東洋医学学術大会は2018年11月24日(土)から11月26日(月)までの3日間、台北市台湾大学国際会議場において陳旺全教授(中華民國中醫師協會全國聯合會理事長)のもと開催された。本会のテーマは「The application of traditional medicine in acute and critical care-prospects and challenges」(救急疾患における伝統医学の応用—その将来と挑戦)であった。その関係で筆者も Japan-Taiwan Symposium (Japan Session) On Application of Traditional Medicine in Acute and Critical Care に招待講演の一人としてお招きいただいた。筆者は "Kampo medicine in emergency and critical care medicine" と題して、救急外来やICUで用いられる漢方治療について概説した。われわれの施設では救急外来から集中治療まで多種多様の症例に漢方治療を単独もしくは西洋医学的アプローチとの併用の形で使用している。西洋医学と東洋医学とは相反するものではなく、相補しあうものとして、両者の長所を活かせば良いと考えている。今回は速効性が期待できる芍薬甘草湯と日本で創製された治打撲一方による外傷治療を中心に話をした。実際にわれわれの施設では急性期・重症患者で漢方の出番のない症例はほとんどいない。

台湾では肝不全に対して、茵陳蒿湯、涼膈散、四逆散、小承気湯を使用する頻度が多いとのことであった。癌患者に対する東洋医学的アプローチの講演も同じセッションにあった。台湾では(日本も同様かもしれないが)、抗癌剤と漢方薬の併用は相互関係が明らかではないため、どちらかに治療が偏る傾向があるとのことであった。



左：会場に掲げられていたポスター
日本アニメ(萌え系)を彷彿とさせるポスター



上：展示会場の一景
展示会場では漢方薬や鍼灸が展示されていたが、日本と違って
エキス剤の展示はほとんどなかった。

有益な学会ではあったが、もう少し早めに準備をさせていただけると日本からの参加者も増えると思われた。台湾の事務局に直接問い合わせて正式に返事があったのが、学会発表の1か月前、プログラムをホームページ上で確認できたのも10日ほど前、抄録集は学会場で初めて頂いた。それまで、シンポジストと思っていたが、発表前日になり、招待講演だと判明し、スライドを作り直せたのは当日の朝であった。運営側もかなり混乱していたのであろうが、そのような素振りは一切感じさせず、懇親会では皆さん弾けていたのは、良きにつけ悪きにつけ台湾の面白いところであろうか。いずれにせよ、飛行機の手配、ホテル予約などがままならず、近接の手頃なホテルは満室とのことで宿泊できなかった。結局、台湾には1日しか滞在できなかったが、東洋医学の先生方と知己になれたのは望外なる喜びであった。このような機会を与えていただいた関係者の皆さまに深謝したい。

－第19回国際東洋医学学術大会ポスター賞を受賞して－

東北大学病院 漢方内科 有田 龍太郎 ありた りゅうたろう

本学会では口頭発表31題、ポスター発表195題が発表されました。私はポスター発表で"Typical cases of Kampo treatment according to Yasui classification"と題し、安井廣迪先生が提唱している西洋医学の視点からみた漢方治療の分類（安井分類）を元に、以下の4症例の提示を行いました。

1. 漢方薬単独で治療可能なもの：過敏性腸症候群
2. 西洋医学的標準治療に漢方薬を組み合わせるもの：シェーグレン症候群による諸症状
3. 西洋医学的標準治療の副作用を漢方薬で軽減できるもの：乳癌術後ホルモン療法による更年期症候群様症状
4. 西洋治療が使えない／標準治療がないが、漢方薬で治療できるもの：思春期の原因不明のふらつき、筋力低下、抑うつ症状

漢方薬に限らず他の代替医療でもこの分類を考えながら治療を選択することで、西洋医学と補完代替医療のあり方を確認できる、という内容で発表させていただきました。



今回のポスター発表には2つの賞があり、その選定がユニークでした。参加者は学会受付時にシールを受け取り、それをポスターに貼り付けて投票していきます。シールの数が投票数となり Popular Award が選ばれました。さらに、最終日に短いフラッシュプレゼンテーションが行われ、総合評価で Honorable Mention Award が選ばれました。日本からは Popular Award には大川祐世先生（森ノ宮医療大学）、石内勘一郎先生（名古屋市立大学）、許鑫先生（名古屋市立大学）、渥美聡孝先生（九州保健福祉大学）、高山 真先生（東北大学）、有田の6名が選出されました。

Honorable Mention Award には高山真先生、有田の2名が選ばれ、ダブル受賞となりました。さらに光栄なことに、私の発表が第2位に選出されました。発表のアイデアを頂きました安井廣迪先生、そして共同演者の先生方にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。

台湾での伝統医学の扱いは非常に高く、若い研究者発表が多く、非常に活気があり気後れするほどの雰囲気でした。そうした中で日本人が多く受賞されたことは大変名誉なことだと思います。私もこの賞に恥じぬよう、今後は自らの研究を進めると同時に、国際舞台と一緒に発表できるような若手研究者を育てるという点でも精進して参りたいと思います。簡単ではございますが、報告に代えさせていただきます。

2019 年度 ISOM Japan 理事一覧

先号でご報告した通り、2018年11月25日にICOM19（台湾）で行われた国際理事会にて、元雄良治先生が2019年よりISOM全体の会長（理事長）に選出されました。そのため、去る12月1日に2018年度第3回国際東洋医学会日本支部理事会（メール会議）を開催し、2019年1月からの理事を以下の先生方にお務めいただくことに決定いたしましたので、会員の皆様にご報告申し上げます。

以下、敬称略、五十音順。

1. 大山 雅義（岐阜薬科大学）：広報、日本支部ニューズレター編集担当
2. 尾崎 和成（市立伊丹病院老年内科）
3. 貝沼 茂三郎（九州大学病院総合診療科）
4. 加島 雅之（熊本赤十字病院内科）
5. 斉藤 宗則（明治国際医療大学）
6. 高山 真（東北大学病院漢方内科）：ISOM 理事（漢方担当）
7. 津谷 喜一郎（東京有明医療大学）
8. 友利 寛文（那覇市民病院外科）
9. 永井 良樹（日本赤十字社医療センター内科）
10. 永田 豊（諏訪中央病院東洋医学科）
11. 並木 隆雄（千葉大学大学院和漢診療学）
12. 福間 裕二（日高病院泌尿器科）
13. 牧野 利明（名古屋市立大学大学院薬学研究科）：ISOM 副事務総長・日本支部事務局長
14. 宮崎 瑞明（塩浜宮崎医院）：ISOM 理事（台湾担当）・日本支部副理事長（副支部長）
15. 元雄 良治（金沢医科大学腫瘍内科学）：ISOM 会長（理事長）
16. 山岡 傳一郎（愛媛県立中央病院漢方内科）
17. 山下 仁（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科）：ISOM 理事（鍼灸担当）
18. 吉富 誠（梶原町立梶原病院）：ISOM 理事（韓国担当）・日本支部理事長（支部長）

日本支部の益々の発展のために理事一同献身して参りますので、会員の皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

5th ISJKM (2019, 独ハン・ミュンデッソ) 開催予告

ドイツ・ミュンヘンのライセンウェーバー先生から、第5回 International Symposium for Japanese Kampo Medicine (5th ISJKM) の開催予告がありました。会期は2019年9月6日(金)～7日(土)で、会場はゲッティンゲン郊外のハン・ミュンデン市にあるヴェルフ家の城館(Welfenschloss)内です。この歴史薫る街を訪れるにはハノーファー空港が最寄りとなりますが、フランクフルト空港やベルリン空港からの鉄道の便も良いそうです。暫定プログラムと講演要旨雛形はISJKM ホームページの会議サイト (<https://www.isjkm.com/conferences>) から入手可能です。現在、口頭及びポスター発表の他、新たな試みとしてワークショップも企画されています。尚、講演要旨の申込締切は4月30日(火)となっていますので、奮ってお申し込みください。

人參養榮湯シンポジウム開催予告

国際東洋医学会日本支部と東北大学病院総合地域医療教育支援部・漢方内科共催の人參養榮湯シンポジウムの開催についてご案内いたします。日時は2019年12月1日(日)、会場は仙台市医師会館大講堂にて開催予定です。人參養榮湯の歴史的背景から、症例報告や基礎研究による知見を礎にした臨床的エビデンスの構築に向けての取組みについて討議し、情報を共有する貴重な機会となることを期待しています。当シンポジウムの詳細については、今後 ISOM Japan ホームページにてご案内していく予定です。

国際東洋医学会日本支部「ニューズレター」名称改訂のお知らせ

2018年11月24日に開催された日本支部理事会で、本ニューズレターの名称について審議し、名称を『Journal of ISOM Japan (日本語名：国際東洋医学会日本支部会誌)』と名称を変更することを決議しました。これまでのような一般ニュースだけでなく、会員の自由な論考についても掲載できるようにして、会員数を増やす機会とし、学会を活性化したいという目的です。

投稿は会員であることを必要とし、日本支部理事の中に編集委員を置いて査読をさせていただきますが、印刷代は請求せず、これまで通り会員には印刷物を郵送(将来的にはメール配信を検討中)し、その他日本支部のホームページ上でオープンアクセスとする予定です。

会員の皆様からの投稿を期待します。

ISOM Japan ニューズレター 2018 No. 2
発行日 2019年2月6日
編集者 ニューズレター編集委員会
発行者 大山雅義
発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部

ISOM Japan

名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学薬学部生薬学分野内
TEL&FAX 052-836-3416

E-mail: isomjapan@gmail.com

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>